

## 病害虫発生予察情報(飛騨地域) 8月予報

### 【 水稻 】

#### いもち病(穂いもち) ※病害虫発生予察注意報第4号(R2.7.22付)発表

BLASTAM(アメダスデータを用いた葉いもち発生予察システム)によると、6月中下旬に続き7月第1半旬以降、感染好適日、準感染好適日が頻繁に確認されています(表1)。7月下旬のほ場調査では、一部ほ場で葉いもちの発生が認められました。

気象予報では、気温が高く降水量や日照時間は平年並みの予報ですが、出穂期以降も降雨が続く場合は追加防除も検討してください。

#### 斑点米カメムシ ※病害虫発生予察注意報第3号(R2.7.22付)発表

斑点米カメムシは出穂期以降水田への侵入が多くなります。地域で薬剤防除を計画的に行い、斑点米の発生軽減に努めてください。

### 【 野菜・花き 】

#### 灰色かび病 ※病害虫発生予察注意報第5号(R2.7.31付)発表

トマト調査ほ場において、灰色かび病が平年よりも早く発生し、7月下旬調査では、発病株率も46.2%(平年0.0%)と高まっています(図1)。

例年、8月下旬~9月にかけて本病の発病株率が高まる傾向にあることから、晴れの日が多い8月中に、本病の菌密度を抑制するため、発病した果実や葉、感染源となる花がら、葉先枯れ部を除去しほ場外へ持出し処分するとともに、通気性を確保し湿度を下げるため脇芽、下葉かき等を行ってください。また、薬剤防除は耐性菌の発生を防ぐため同一系統薬剤の連用を避けローテーション防除に努めてください。

### 【 果樹 】 ※病害虫発生予察注意報第1号(R2.5.27付)発表

#### 果樹カメムシ類(特にチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ)

高山市国府町に設置した予察灯での果樹カメムシ類の累計誘殺数(7月第1~第5半旬)は、チャバネアオカメムシが368.0頭(平年167.3頭)(図3)、クサギカメムシが、94.0頭(平年125.7頭)(図4)、ツヤアオカメムシが159.0頭(平年10.7頭)(図5)、と非常に多くなっています。本虫は、夜間の気温や湿度が高いと活動が活発となるため、ほ場内をよく観察し飛来が認められる場合は薬剤防除を実施してください。

### ○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(8月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水	生育(高山市)	並							(生育はコシヒカリ)
	穂いもち	多	<初発生>						<b>穂いもち</b>
	斑点米カメムシ類	多	<出穂後本田に侵入>						葉いもちの発生ほ場では、穂ばらみ期~穂揃期に予防的な防除を徹底する。 過剰な追肥は、発病を助長するので行わない
稲	防除適期		▲← →▲穂いもち(穂揃期・乳熟期) ▲← 斑点米カメムシ(剤の種類による) →▲						<b>斑点米カメムシ類</b> 防除は穂揃期およびその7~10日後の2回実施が効果的(粒剤を除く)。
	べと病	並	<高標高地で発生>						<b>べと病</b>
ホウレンソウ	コナダニ類	並	<盛夏過ぎの発生に注意>						高標高地では、8後半に発生の恐れがあるため、予防散布を行う。
	防除適期		▲← べと病(高標高地) →▲ ▲← コナダニ(防除) →▲						<b>コナダニ類</b> 盛夏を過ぎるとほ場により多発することがあるため、発生に注意する。
トマト	灰色かび病	多	<曇雨天時の発生注意>						<b>灰色かび病</b>
	葉かび病	並	<初発生>						花がらや葉先枯れはすぐに除去する。発生後はできるだけ早い時期に治療効果が高い薬剤で進行を止める(葉かび病も同様)。同一系統薬剤の連用は避ける。
	防除適期		▲← 灰色かび病 →▲ (予防剤の散布、ローテーション防除) ▲← 葉かび病 →▲ (予防剤の散布、ローテーション防除)						<b>葉かび病</b> 樹勢低下防止と防除を徹底する。

注) ▲、▲←→▲:防除適期

野菜全般	病害虫名	生育状況	期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
野菜全般	タバコガ類	多	<発生最盛期>						タバコガ類 防虫ネットの被覆がない場合は注意する。 中齢以降の幼虫は薬剤がききにくいため早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
	防除適期		▲←	タバコガ類(早期発見・早期防除)				→▲	
果樹全般	生育(高山市)	並							(生育はモモ) カメムシ類 飛来が認められた場合は直ちに防除を実施する。果樹カメムシ類の飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため天候に注意する。
	カメムシ類	やや多	<越冬または第1世代成虫>						
果樹全般	防除適期		▲←	カメムシ類(果樹園飛来時)				→▲	

注) ▲、▲←→▲:防除適期

調査データ

表1. 令和2年7月 BLASTAM によるいもち病発病条件

	河合	神岡	白川	栢尾(上宝)	高山	六厩(荘川)	宮之前(朝日)	萩原	宮地(下呂)	金山
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
7/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-
7/6	-	-	●	-	-	◎	-	-	●	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/9	-	●	-	◎	◎	◎	-	-	-	-
7/10	●	●	●	-	-	-	△	-	-	●
7/11	-	-	●	-	-	-	△	-	●	●
7/12	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/14	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-
7/15	●	◎	●	△	●	△	△	-	-	●
7/16	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	-	△	△	◎	●	-	△	-	-	-
7/18	●	-	△	-	-	-	-	-	-	-
7/19	-	-	●	◎	●	-	-	◎	-	●
7/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/21	-	●	-	-	●	-	●	-	●	-
7/22	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-
7/23	◎	●	-	-	-	-	-	-	-	-
7/24	●	◎	-	●	-	●	●	●	-	-
7/25	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
7/26	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
7/27	●	◎	●	-	●	◎	-	-	-	-
7/28	●	-	●	-	●	-	-	-	-	●

凡例  
 △ : 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)  
 ▲ : 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)  
 ○ : 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15~25℃の範囲外)  
 ◎ : 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)  
 ● : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間満ち、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある)  
 - : 好適条件、準好適条件は満たされなかった  
 ? : 判定不能  
 ※好適条件(●)が現れると感染し、潜伏期間(5~10日)を経て発病します。

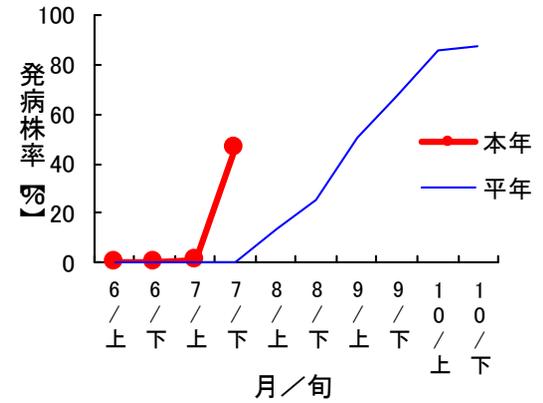


図1. トマト灰色かび病の発病株率の推移 (飛騨地域予察ほ3か所平均)



図2. 葉先枯れ部について灰色かび病菌

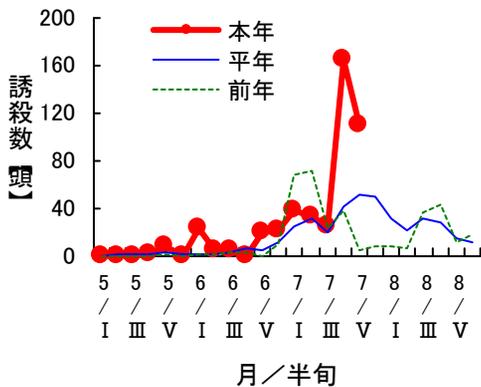


図3. チャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (高山市国府町)

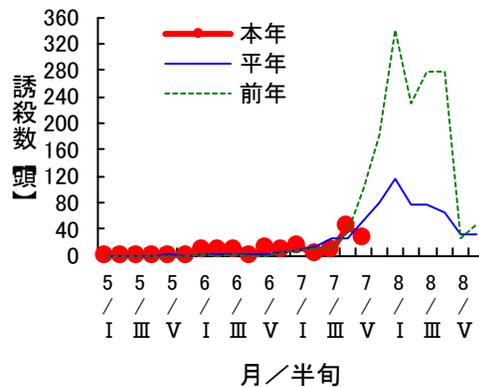


図4. クサギカメムシ誘殺数の推移 (高山市国府町)

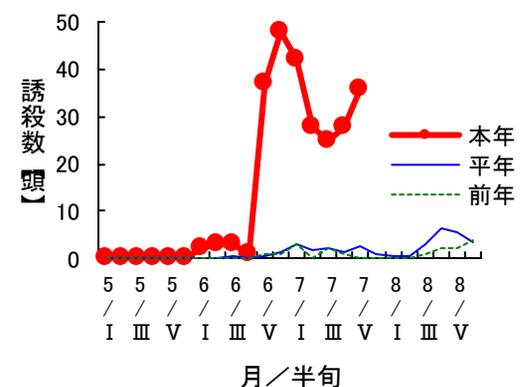


図5. ツヤアオカメムシ誘殺数の推移 (高山市国府町)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 7月30日発表)

期間のはじめは雲の広がりやすい天気が続きますが、その後は晴れる所が多い見込みです。また、向こう1か月は平年より気温が高く、降水量と日照時間は平年並みの予報です。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111 (内線 245) FAX (0577) 34-2706